

令和7年度相模原市公園施設長寿命化計画更新業務委託特記仕様書

1. 業務の目的

本市では、平成28年3月に都市公園施設の老朽化に対する安全対策の強化、ライフサイクルコストの縮減及び将来的な補修・更新等に係る費用の平準化を図ることを目的として、市が管理する全ての都市公園を対象として「相模原市公園施設長寿命化計画」（以下、「本市計画」とする。）を策定し、本市計画に基づいた公園施設の補修・更新等を進めながら、都市公園の計画的な維持・管理に努めているところである。

計画策定から10年が経過することから、「公園施設長寿命化計画策定指針（案）（改定版）」（平成30年10月国土交通省）に基づき、長寿命化計画の更新に必要な調査等を実施し、老朽化に対する安全対策の強化やライフサイクルコストの縮減を図ると共に、維持管理の効率化や費用の縮減を目的とした、公園施設の再編・集約化や新技術等を活用した維持管理方法を検討し計画に反映させ、本市計画の更新を行う。

2. 委託場所

相模原市が管理する相模原市内の624箇所（表1対象都市公園（一部））の公園及び緑道を対象とする。詳細については別紙「対象都市公園一覧」のとおりとする。

表1 対象都市公園（一部）

公園種類	公園数	公園名
街区公園等	588	村富公園、相生公園、富士見公園、月見公園、長久保第1公園、てるて公園、氷川公園、矢懸公園、比丘口公園、中央公園、里見公園、松蔭公園、長久保第2公園、長久保第3公園、御園公園、光が丘第1公園、光が丘第2公園、境川改修残地暫定広場・東橋本（高砂）、中沢公園、大野台ピース公園、本久こもれび公園ほか
近隣公園	12	橋本公園、内出公園、原宿公園、小山公園、緑が丘2丁目公園、しおだテクノパイル公園、相模大野中央公園、当麻山公園、下溝古山公園、相模台公園、林間公園、深堀中央公園
地区公園	2	鹿沼公園、古淵鶴野森公園
総合公園	4	相模湖林間公園、相模原麻溝公園、相模原北公園、津久井又野公園
運動公園	3	淵野辺公園、横山公園、相模原スポーツ・レクリエーションパーク
風致公園	2	相模原自然の村公園、道保川公園
歴史公園	3	史跡田名向原遺跡公園、史跡勝坂遺跡公園、勝坂歴史公園
緑道	7	千代田緑道、みどりのみち、さがみの仲よし小道、相模緑道緑地、八瀬川緑道、城山水源のこみち、横浜水道道緑道
広場公園	1	古淵西公園
墓園	2	峰山霊園、柴胡が原霊園
計	624	

3. 委託期間

契約日から令和8年3月23日までとする。

なお、庁内会議等で使用する資料がある場合、委託期間内に成果等の資料を提出する。

4. 委託内容

本業務は、平成28年に策定した本市計画を現在の相模原市勢や社会情勢等を鑑みた内容に更新するものである。また、更新するにあたり、本市計画及び「公園施設長寿命化計画策定指針（案）【改定版】」（平成30年10月国土交通省）等の指針を参考とする。

なお、更新は本計画に基づいて5章構成を基本とする。

（1）公園施設長寿命化計画の概要

計画の目的、計画期間、対象公園等の基本事項について、現在の公園等の状況を鑑みた内容に更新する。

（2）予備調査

長寿命化計画の対象とする公園施設について、現地調査を行い実際の設置状況や利用状況、劣化や損傷の状況を把握し、その内容等を取りまとめるものである。

1）資料整理

- ・公園台帳等から施設に関する情報（施設種別、製造者、設置年数等の情報）の収集整理を行う。
- ・ライフサイクルコストの縮減効果の見込み、利用状況、公園の利用促進などの視点で、予防保全型管理を行う候補となる公園施設と事後保全型管理を行う公園施設に分類する。
- ・健全度判定で活用する健全度調査票に施設情報や分類結果を記入し、調査前に更新する。

2）現地調査

- ・現地で、公園施設の有無、増減、利用状況、劣化や損傷の状況を把握する。
- ・調査時に公園が適切な機能を果たしているか、公園施設の利用実態などからも確認する。

3）とりまとめ

- ・現地の状況と公園台帳等の内容について照合し、健全度調査票等を必要に応じて修正を加えとりまとめを行う。
- ・事後保全型管理の施設のうち、2ha以上の公園に設置されている施設は設置状況や劣化の進行状況を健全度調査票に記録し、2ha未満の公園に設置されている施設は公園概要シートに設置状況等の概要を整理する。

（3）健全度調査と健全度・緊急度判定

予防保全型管理の候補に分類した施設について、より詳しく施設の構造材及び消耗材等の劣化や損傷状況や美観等について健全度調査を行い、施設の性能の低下状況について判定を行う。

判定結果に基づき、予防保全型管理を行う候補における長寿命化対策の時期や具体的な対

策内容について検討を行う。

なお、定期点検を実施する遊具や法定点検が義務付けられている施設については、その点検結果や判定をもって健全度調査とすることとができる。

1) 健全度調査

健全度調査にあたっては専門技術者による点検を原則とし、表2に示す施設区分毎に、それぞれの専門知識を有する者が点検並びに評価・判定を行う。

表2 点検調査における公園施設毎の留意点と専門技術者の例

調査区分	健全度調査での留意点	専門技術者
一般施設調査	目視等により、対象施設の全体及び主要部材について実施する。	技術士（建設部門）、土木施工管理技士（1・2級）、造園施工管理技士（1・2級）、登録ランドスケープアーキテクト（RLA）、これら同等以上の知識や経験を有する者
遊具調査	目視等による点検に加え、国の基準（都市公園における遊具の安全確保に関する指針）に基づく定期点検調査報告書を活用する。	公園施設製品安全管理技士、公園施設製品整備技士、公園施設点検管理士、公園施設点検技士、これら同等以上の知識や経験を有する者
建築物調査	特殊建築物等定期点検業務基準、建築物点検マニュアル・同解説に準じて、目視等により調査を実施する。	建築士（1級及び2級）、これら同等以上の知識や経験を有する者
土木構造物調査	構造物の種別毎の既往マニュアル等を参照して実施する。	土木施工管理技士（1・2級）、技術士（鋼構造及びコンクリート）、RCCM（鋼構造及びコンクリート）、これら同等以上の知識や経験を有する者
各種設備調査	定期点検や保守を実施している設備については、その点検結果を活用する。	給排水設備、非常用照明設備、排煙設備、換気設備、昇降設備、消防用設備等に必要な資格

専門技術者の資格は必須条件ではないが、調査者の技量が調査・判定や施設の安全確保に影響することから適切に判断できる者が点検並びに評価・判定を行う。

2) 健全度判定

健全度判定は、健全度調査で得られた情報をもとに、劣化や損傷の状況や安全性等を確認し、公園施設の補修、もしくは更新の必要性について、総合的に判定を行う。

健全度の総合的な判定は、表3 健全度判定の評価基準のとおり「A・B・C・D」の4段階評価を標準とする。

表3 健全度判定の評価基準

ランク	評価基準
A	<ul style="list-style-type: none"> ・全体的に健全である。 ・緊急の改修・更新の必要はないため、日常の維持保全で管理するもの。
B	<ul style="list-style-type: none"> ・全体的に健全だが、部分的に劣化が進行している。 ・緊急の補修の必要はないが、維持保全での管理の中で、劣化部分について定期的な観察が必要なもの。
C	<ul style="list-style-type: none"> ・全体的に劣化が進行している。 ・現時点では重大な事故につながらないが、利用し続けるためには部分的な補修、もしくは更新が必要なもの。
D	<ul style="list-style-type: none"> ・全体的に顕著な劣化である。 ・重大な事故につながる恐れがあり、公園施設の利用禁止あるいは緊急な補修、更新が必要とされるもの。

3) 緊急度判定

健全度判定に基づき、施設の重要度、利用状況、災害時の避難場所指定の有無、地域のニーズへの対応の必要性、美観的価値、施設の構造や施工に起因する危険性等を考慮し、施設の補修若しくは更新に対する緊急度（高・中・低）を設定する。

公園施設の緊急度判定は、表4 緊急度判定の目安のとおりとする。

なお、健全度及び緊急度判定の結果については、健全度調査票ならびに「公園施設長寿命化計画調書（都市公園別）」に記載する。

表4 緊急度判定の目安

緊急度	判定の目安
高	<ul style="list-style-type: none"> ・健全度判定がDの公園施設 ・健全度判定がCの施設のうち、考慮すべき事項を任意に設定し、優先して補修又は更新を行うこととする公園施設
中	<ul style="list-style-type: none"> ・健全度判定がCの公園施設のうち、優先して補修または更新を行わない公園施設
低	<ul style="list-style-type: none"> ・健全度判定がA・Bの公園施設

(4) 公園施設長寿命化計画

日常的な維持保全に関する基本方針と公園施設長寿命化のための基本方針について、現在の公園等の状況を鑑みた内容にする。

1) 予防保全型管理を行う候補となる公園施設

- ・健全度調査と健全度・緊急度判定の結果を踏まえ施設ごとの長寿命化対策を行う時期や対策内容を更新する。
- ・予防保全型管理、事後保全型管理それぞれに要する費用、使用見込み期間を用いて、単年度あたりライフサイクルコストの額をそれぞれ算出して、どちらが低廉なコストでの管理となるかを比較し、施設ごとの管理型を更新する。

2) 事後保全型管理を行う施設

- ・更新の時期や費用について更新する。

- ・施設種類別に劣化や損傷の進行に応じた撤去・更新の基準を明確に設定する。

3) 公園施設の再編・集約化及び新技術の活用

- ・公園の周辺環境と公園施設の各調査結果の内容を照らし合わせ、利用実態等の公園の在り方と公園施設の適正さを検討し、公園施設の再編・集約化についてとりまとめを行い本市計画に反映させる。
- ・公園施設の維持管理にかかる費用の縮減や効率化を目的とした、公園施設の調査や点検及び結果の整理等に利用できる新技術等の活用を提案し本市計画に反映させる。

4) 用語の解説

本市計画に記載している用語で、内容の説明が必要なものについて用語及び内容を更新する。

(5). 打合せ

打合せは、初回に1回、中間3回、完了1回の5回を基本とする。

中間打合せは、「予備調査」の完了時、「健全度調査と健全度・緊急度判定」の完了時、「公園施設長寿命化計画」の「公園施設の再編・集約化及び新技術の活用」を検討する時の3回を基本とする。

5. 業務遂行上の留意点

受注者は本市監督員と連絡を密にし、委託の取り組み内容に齟齬が生じぬよう監督員と適宜打ち合わせ（電話・メール等での連絡、報告を含む）を行い、作業を進めること。

市が行った既存の調査資料については、市より貸与するものとする。

貸与資料としては次のものとするが、追加で必要な資料がある場合は監督員と調整し貸与する。

- ・相模原市公園施設長寿命化計画
- ・相模原市公園施設長寿命化計画（様式1、様式2、様式3）
- ・令和6年度公園等遊具点検結果

調査結果については、本市で運用している公園台帳システム等との連携が可能となるよう、書式や形式等について協議するものとする。

6. 成果品

提出する成果品は以下のとおりとするが、まとめ方等詳細については監督員と協議のうえ決定するものとする。

- | | |
|---------------------------|----------------------------|
| (1) 健全度調査票 | A4判簡易製本1部 |
| (2) 公園施設位置図（CAD化図面） | A4判簡易製本1部 |
| (3) 相模原市公園施設長寿命化計画更新の概要版 | A4判製本（マット紙）100部
(20頁程度) |
| (4) 相模原市公園施設長寿命化計画 様式1から3 | 各2部 |
| (5) (1) から (4) の電子データ | 一式 |
| (6) その他監督員が指示した資料。 | |

7. 成果品の帰属

成果品に掲げる成果物は、すべて相模原市に帰属する。

8. その他

- (1) 「相模原市環境方針」の主旨を踏まえ、業務の実施において、省資源、省エネルギー及び廃棄物の削減に取り組むと共に、環境関連法令の規則等を遵守すること。
- (2) 市への提出書類及び添付資料については、原則として再生紙を使用すること。
- (3) 業務実施時に車両を使用する場合は、アイドリングストップの実施を徹底し他者に運搬等を委託する場合においても、アイドリングストップの実施を周知するよう努めること。
- (4) 予備調査等で現地を調査する際に、指定管理者が管理している公園については事前に指定管理者に報告する。

なお、指定管理者が管理している公園は、相模原スポーツ・レクリエーションパーク、相模原北公園、小山公園、横山公園、道保川公園、淵野辺公園、古淵鵜野森公園、鹿沼公園、相模原麻溝公園、相模台公園、相模大野中央公園、津久井又野公園、相模湖林間公園の13公園である。

- (5) 本業務の実施にあたり疑義が生じた場合は、協議のうえ決定するものとする。